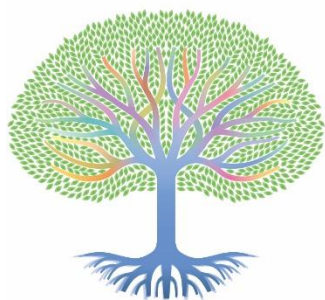
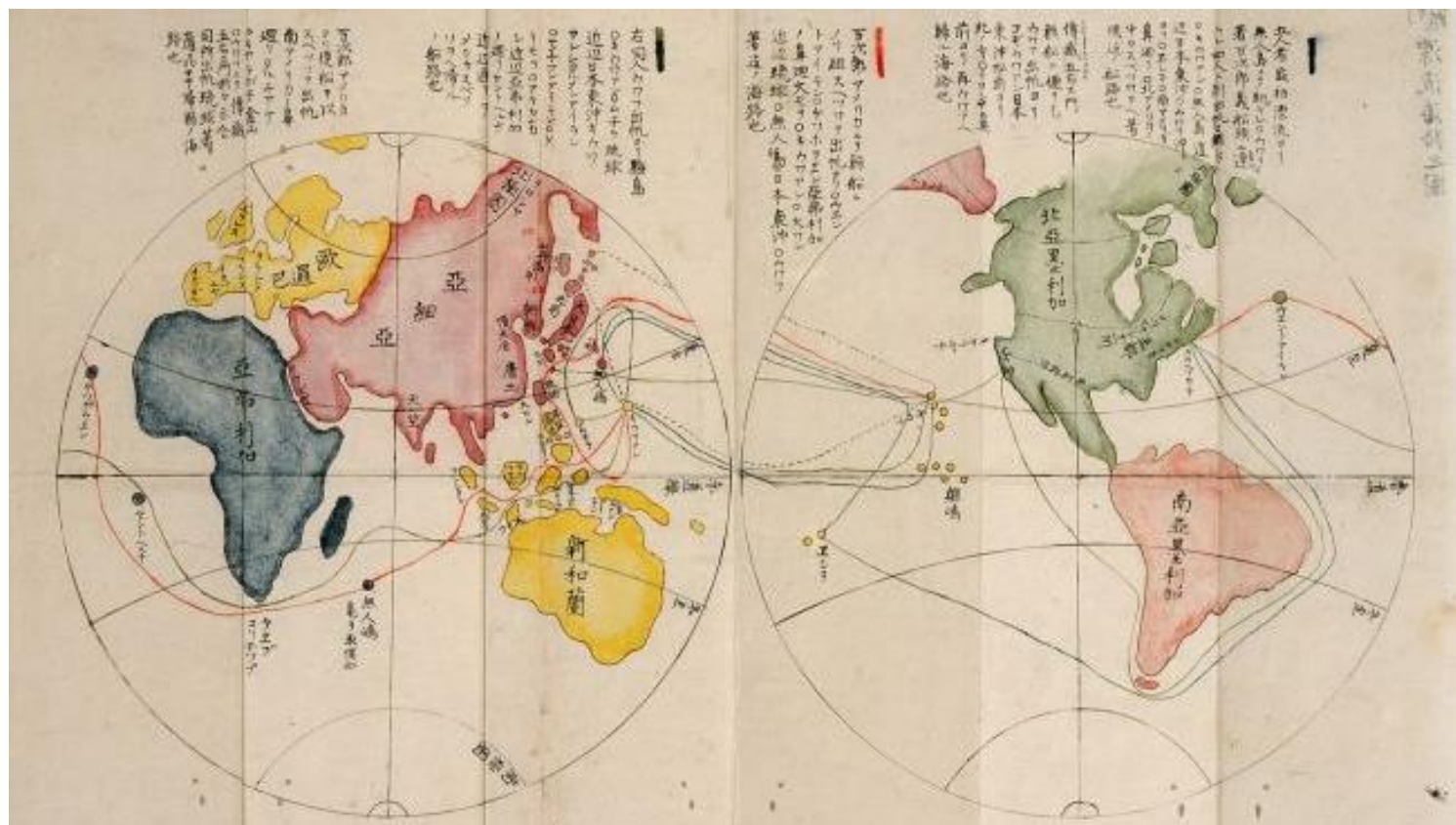




授業づくり通信

2023年1月発行

創刊号

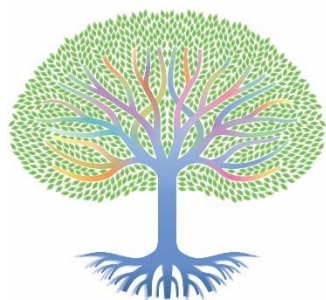


ジョン万次郎の航海を聞き取って土佐の絵師が描いた世界地図(教科書 131 ページ)

目次

- | | | |
|----------------------------|--------|-------|
| ● 読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ | 編集部 | 2, 3 |
| ● 問いが生まれる授業づくりのヒント | 編集部 | 4, 5 |
| ● 学び舎教科書を使った授業実践 | | |
| 生徒と共同で描く町人の姿 | 篠宮 雅代 | 6, 7 |
| ● 研究者が語る学び舎教科書 | | |
| 各時代を生きぬいた、名も知れぬ人々への共感を！ | 宮瀧 交二 | 8 |
| 女性史・ジェンダー史の成果が豊かに盛り込まれた教科書 | 横山 百合子 | 9 |
| ● 中学歴史的分野を「歴史総合」につなぐ | | |
| 運命を切りひらいたジョン万次郎 | 周藤 新太郎 | 10～12 |

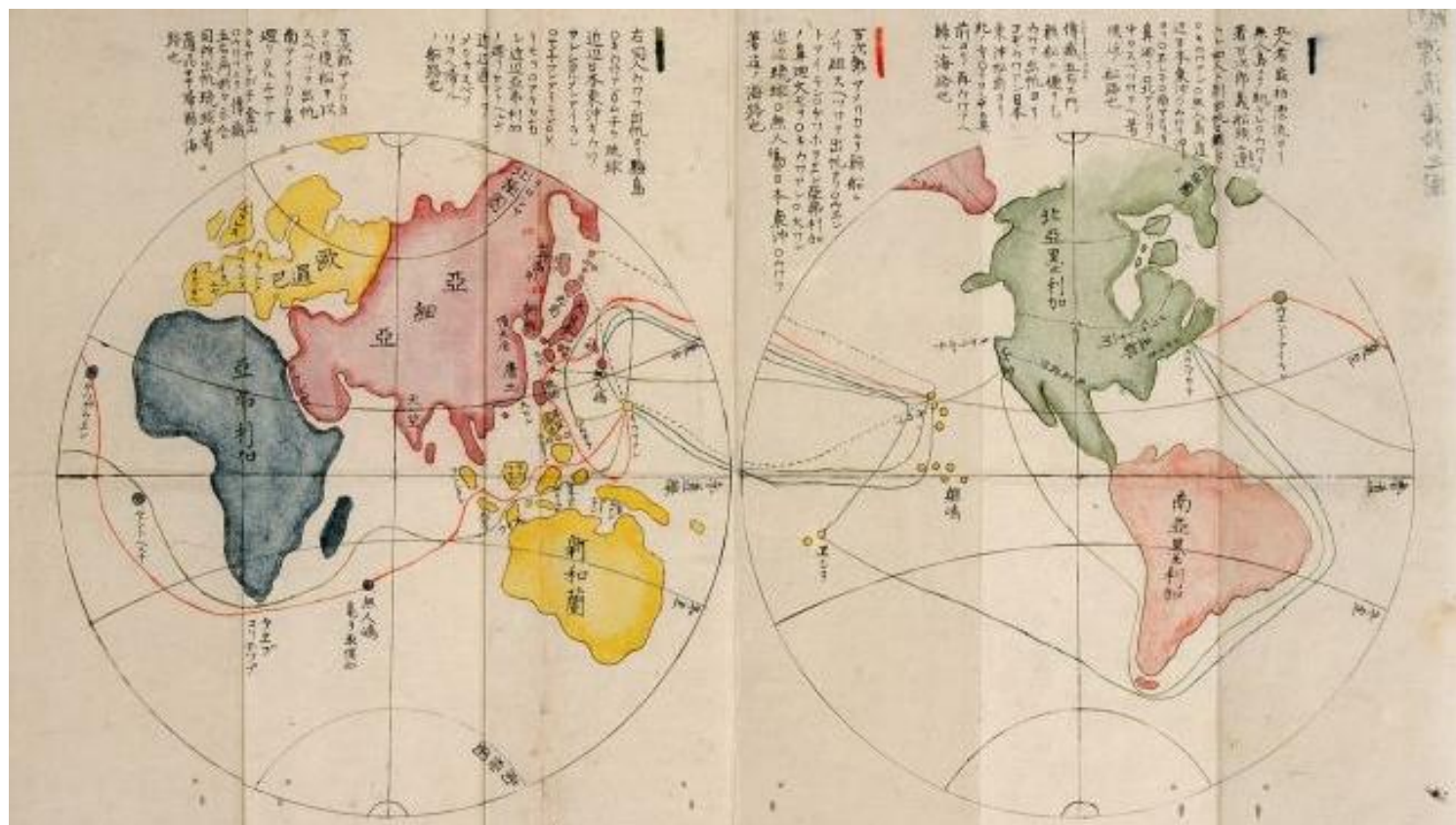




授業づくり通信

2023年1月発行

創刊号



ジョン万次郎の航海を聞き取って土佐の絵師が描いた世界地図(教科書 131 ページ)

目次

- | | | |
|----------------------------|--------|-------|
| ● 読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ | 編集部 | 2, 3 |
| ● 問いが生まれる授業づくりのヒント | 編集部 | 4, 5 |
| ● 学び舎教科書を使った授業実践 | | |
| 生徒と共同で描く町人の姿 | 篠宮 雅代 | 6, 7 |
| ● 研究者が語る学び舎教科書 | | |
| 各時代を生きぬいた、名も知れぬ人々への共感を！ | 宮瀧 交二 | 8 |
| 女性史・ジェンダー史の成果が豊かに盛り込まれた教科書 | 横山 百合子 | 9 |
| ● 中学歴史的分野を「歴史総合」につなぐ | | |
| 運命を切りひらいたジョン万次郎 | 周藤 新太郎 | 10～12 |

読んで楽しい、問いが生まれる、対話がはずむ

2021年から施行された学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」を掲げています。主体的な学習は、生徒の関心を引き出す魅力的な教材との出会いから始まります。観察して発見や疑問がたくさん出る図版や、読む人を歴史の舞台に引き込む生き生きとした記述から、自ら感じ、考える主体的な学びのエンジンが始動します。

予想される 生徒の疑問や問い

「絵の人たちはどういう人たちだろう」
「何と言っているだろう」
「なぜ黒船を見にきたの？」
「望遠鏡は自分で持ってきたのか」
「何が見えたのだろう」
「黒船見物に行った女性は多かったのかなあ」

生徒の関心を引き出す印象的なタイトル

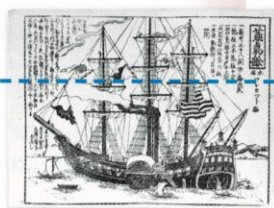


① 黒船を見物する人びと(『開港前風景絵巻』増田寛一蔵立歴史資料館の博物館蔵)

(7) 黒船を見に行こう —ペリーの来航—

人びとはなぜ黒船見物に行くのだろう。黒船が来て幕府・大名はどう反応したか。

「福島の百姓が黒船を見に来た」
「菅野八郎はどういう人だろう」



② 黒船を描いた瓦版(『開港前風景絵巻』増田寛一蔵立歴史資料館の博物館蔵)

「同じペリーなのに、なぜいろいろな顔があるのだろう」



③ 日本人が描いたペリーの顔(『開港前風景絵巻』増田寛一蔵立歴史資料館の博物館蔵)

「ペリーの目的は何だったのか」

「ペリーは沖縄に5回も寄港して条約を結んでいた。沖縄の人たちはどう考えていたのか」

ペリー艦隊の琉球(沖縄県)への来航
1853年4月、軍艦3隻で那覇に入港した。兵士を上陸させ、首里城を訪問した。以後、5回にわたって寄港し、貿易を認める条約を琉球王国と結び、石炭の貯蔵施設をつくった。

■ 大騒ぎの江戸

1853年6月、アメリカの使節ペリーが率いる軍艦4隻が、江戸湾の入り口、浦賀(神奈川県)にあらわれました。蒸気船2隻をふくむこの艦隊を、人びとは黒船とよびました。

これを知った江戸の人たちのなかには、一目、黒船を見ようと、浦賀まで出かける人が大勢いました。戦争がはじまるのではないかと、家族で逃げ出す江戸の町人もいました。さまざまな情報が手紙でやりとりされ、瓦版も多数発行されました。

黒船の来航は全国に伝わりました。よく年、陸奥国(福島県)の百姓・菅野八郎は、神奈川(神奈川県横浜市)に出かけて、実際に見た黒船の威力や人びとの不安を書き記しました。

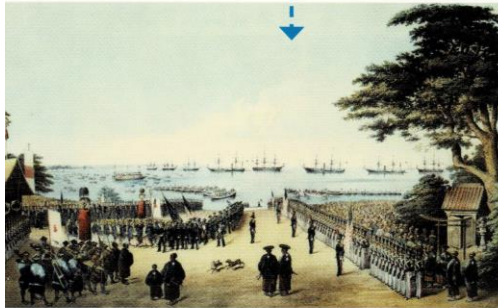
■ ペリー、江戸湾に侵入

アメリカは、1848年には、領土を太平洋側のカリフォルニアまで広げていました。日本を寄港地として、太平洋を横断する航路を開いて、中国に進出したいと望んでいました。また、灯油にする鯨油をとるために、多くの捕鯨船が日本近海で活動していました。

ペリーは琉球(沖縄県)に寄港したのち、日本に來航しました。江戸湾の中で軍艦を進め、強引に上陸して、貿易を求める大統領の国書を幕府にわたそうとしました。幕府は、衝突を避けるため、湾内での測量

第6章(7)黒船を見に行こう・生徒の活動例 (教科書 p.150-151・指導書 p.156-157)

- ・図版1の人たちは何を話しているだろう。絵の人物に吹き出しを入れてみよう。
- ・黒船来航を知った人びとはどんな反応をしただろう。
- ・ペリーは何のために来たのだろう。
- ・幕府は大名たちに意見を聞いた。自分が大名だったら、開港に賛成か、反対か。
- ・日米修好通商条約を結んだ日本はどう変わっていくか、予想してみよう。
- ・幕府が通商条約を結んだことをどう思うか、自分の考えを書いてみよう。



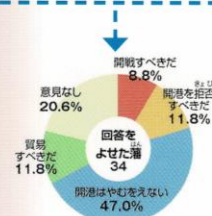
④横浜に上陸するペリー (横浜開港資料館蔵)



⑤ペリーの来航経路 (年月日は太閤船)



⑥アメリカ東インド艦隊司令官ペリー (1794～1858)



⑦日米修好通商条約をめぐる大名の意見 (『日本維新史研究』による)

開港する5港
神奈川 (横浜)・函館・長崎・新潟・兵庫 (神戸)

居留地
外国人が居住し、営業することを許した特別の地域。横浜や神戸などには、中国人も多く移り住んだ。

「兵士の整列が揃っている」
「通訳はどういう人がしたのか」
「なぜ犬がいるの?」
「幕府の役人や、見物している人はどんな気持ちだっただろう」

「ペリーは半年以上かけて来た」
「なぜ太平洋でなく大西洋から来たのだろう」

「幕府が大名たちに意見を聞いたのはなぜだろう」
「自分だったら、開港に賛成か反対か、どう考えただろうか」

「幕府が通商条約を結んだことは良かったのか」
「貿易が始まったら日本は貧しくなるのだろうか」
「井伊直弼は殺された。これから日本はどうなっていくのか」

などをとがめませんでした。結局、幕府は国書を受け取り、よく年に回答すると約束しました。国書にどう答えるか、態度を決めた幕府は、朝廷に報告し、大名たちに意見を求めました。

ペリーは、1854年1月、今度は軍艦7隻で来航し、幕府と交渉をはじめました。モリソン号事件の例をあげ、漂流民の保護と貿易を求めました。交渉の結果、ペリーは貿易についてはあきらめ、日米和親条約を結びました。この条約で、下田 (静岡県)・函館 (北海道) の2港を開き、燃料・食料・水の補給と漂流民の保護を認めました。下田にはアメリカの領事館がおかれました。

通商条約を結ぶ

1856年、下田に着任したアメリカの総領事ハリスは、幕府の役人と面談しました。ハリスは、イギリスの脅威が日本に近づいていること、貿易は両国の利益になることなどを述べ、強く説得しました。幕府は、中国 (清) で軍事行動をとるイギリス・フランスの動きや、軍事力の差を考え、欧米諸国との武力対決を避けたいと考えていました。

1858年、大老・井伊直弼が反対意見をおさえ、幕府は日米修好通商条約を結びました。この条約で、貿易港として5港を開き、居留地に限って自由な貿易を認めました。幕府は、ほぼ同じ内容の条約をイギリス・オランダ・ロシア・フランスとも結びました。

これらの条約によって、日本国内での外国人の犯罪は、外国の領事が、その国の法律によって裁判することになりました (領事裁判権)。また、日本側が輸入品の関税率を決める権利 (関税自主権) はなく、協定で決めることとしました。日本にとって不平等な内容をふくむこの条約の改正が、以後の外交の大きな課題になっていきます。

井伊直弼が、朝廷の許可なく条約を調印したことや、将軍の後継ぎを独断で決めたことは、反対派から激しく批判されました。これに対して幕府は、80数名を処刑しました。さらに反発した水戸藩 (茨城県) などの浪士は、1860年、江戸城の桜田門外で井伊直弼を殺害しました。

問いが生まれる授業づくりの ヒント

第1章 (1) 木から下りたサル (教科書 p. 12-13・指導書 p. 40-41)



授業づくりの視点

サルはどうやってヒトになっていったのか。生徒が知りたいのは進化の結果でなく、その過程ではないでしょうか。決定的な契機となった直立二足歩行と現生人類に進化していく道のりを、教科書や資料をもとに、気づきや疑問を出し合いながら実感していきます。(文中、「○○○」は予想される生徒の発言、-○○○-は教師の言葉です)

○教科書の図版2のラミダス猿人の骨格から、気がついたことや疑問をあげてみましょう。

「腕が長い。手が大きい」
 「足の親指が長い」「木の枝を足でつかんでいる」
 「これなら木に登って木の上で生活ができる」
 「でも背骨が真直ぐだから、サルとは違う」
 「脳が300～350cc。私たちの脳はどれくらい？」
 「身長は120 cm、小柄だ」
 「440 万年前の人骨が女性だと、どこでわかるの」
 —性別は歯や骨盤から推定します。このラミダス猿人の女性はアウディの名でよばれています—

○図版1ラミダス猿人の想像図を見てみましょう。

直立して歩くとどんな良いことがあるでしょうか。
 「ニホンザルは赤ちゃんをしがみつかせて運ぶけど、絵のお母さんのように直立して歩けば、抱いておんぶして手を引いて、3人は連れていける」
 「直立すれば視野が広がる。敵を見つけられる」
 「敵は何だろう」
 —ヒョウやヘビが忍び寄って子どもを捕えていく—
 「怖いね」
 「気候変動で森が少なくなったから、危険でも木から下りて食べ物を探さなくてはならなくなった」
 「絵の猿人は両手に木の実を持っている」
 「サルは手に持って運ぶことはできない。口にくわえて運ぶ。動物園のサルも口で運んでいた」
 「両手で抱えて持てば、もっとたくさん運べる」
 「たくさん食物を得ること、敵に食べられないようにすることが重要だった」
 「そのためには直立二本足歩行がいい」
 「前足=手で歩く必要がなくなると、手をいろいろなことに使える。道具もつくれる」

○猿人は食べ物を誰に運ぶのでしょうか。

「絵の中の猿人のお母さんは、3人子どもを連れている。たいへんそうだ」



ニホンザルの親子

—ニホンザルの赤ちゃんは生まれて1カ月で歩きます。サルのお産はとても軽いので、お母さんはすぐに食物を探します—



ニホンザルの出産 「日経サイエンス 2002 年 4 月号」より

「人間のお産は重くて赤ちゃんは弱い」

「アウディのお産もたいへんだったのかな」

—動物のなかで人間のお産が最も大変なのは直立二足歩行をした結果なので、ラミダス猿人も今ほどではないにしても、楽ではなかったでしょうね—

—お産が大変になり、子どもの成長に年月がかかると食べ物を運んでくる人が必要になる—

「両手にたくさん食料を抱えて家族に運んだのか」

「お父さんも活躍して家族が生まれた」

○人類の脳は巨大になっていきました。どんなことをしていったからでしょうか、考えてみましょう。



エチオピアで発見された現生人類(ホモ・サピエンス)の人骨化石。放射年代測定によりおよそ 16 万年前とされた。

「ラミダス猿人の4倍くらい脳が大きくなっている」
「手で道具をつくるのに、頭を使って工夫したから」
「狩りの作戦を考えるには頭をすごく使っただろう」
「肉を食べるようになったから。タンパク質が豊富」
「火を使ったから。火は危険で取り扱いが難しい」
「氷河期に入って寒くなり一生懸命工夫して生きた」

「気温が7度も低くなった。火を使うことが増えた」
「火の周りで夜も仕事や相談ができるようになった」
「子どもを育てるのも食物を得るのも家族や集団で行うから、言葉が増えた」

「食物がある方向に移動するため情報を集めた」

○ラスコー洞窟に入って壁画を見学しましょう。壁画を描いた人に質問してみたいことはありますか。

学ぶ会ホームページ/TOP から「授業づくり・調べ学習のためのリンク集」に入り、ラスコー遺跡にアクセスします。「洞窟を訪ねる」(約3分間の動画)を見てみましょう。動画を一時停止して、気になる動物の絵や人の絵を観察しましょう。

「なぜこんなに絵が上手なのですか。先生はいたか」

「雄牛の絵は3m以上もありますが、実物大ですか」

「高い所に大きな絵をどうやって描いたんですか」

「雄牛に目があって馬や鹿にないのはなぜですか」

「暗くてゴツゴツした洞窟に描いたのはなぜですか」

「ススの出ない灯りの原料をどのように見つけたか」

「動物の絵を選んで描いたのはなぜですか」

「絵は多くの人に見せましたか。秘密でしたか」

「洞窟の絵の前で、セレモニーや祭りをしましたか」

「動物の絵は上手なのに、人の絵が下手なのはなぜ」

「鳥のくちばしの人、なぜ倒れているのですか」

—みんなから出た質問について、壁画を描いた人が何と答えるか想像できたら出し合いましょう—

授業のまとめ

サルからヒトになり現生人類となって地球上に広がっていく上で、大変だったこと、困難だったことは何か。それをどうやって乗り越えたか。まとめの文章を書いてみましょう。

■授業づくりに役立つ文献

- ・NHK スペシャル「人類誕生」制作班『大逆転！奇跡の人類史』NHK 出版 2018 年
- ・別冊日経サイエンス 242『人間らしさの起源 社会性、知性、技術の進化史』2020 年
- ・五十嵐ジャンヌ『13 歳からの考古学 なぜ洞窟に壁画を描いたの？』新泉社 2021 年

学び舎教科書を使った授業実践

生徒と協同作業で描く町人の姿

篠宮 雅代（東京都公立中学校）

第5章（3）「刀より金銀の力ー商業の発展と元禄文化ー」（教科書 p. 112-113）



① 町人と武士の上野での花見（『上野清草風俗図巻』東京国立博物館蔵）

（3）刀より金銀の力ー商業の発展と元禄文化ー

金銀の力が刀より上とは、どういうことか。そういう時代には、どんな文化が生みだされたか。

1. 図版の読み取りから時代のイメージをつかむ

メイン図版 ①「町人と武士の上野での花見」の花見客のようすから多くの気づきと問いが生まれる。またフォーカスの文章をもとに生徒と協同して描いた想像図や、書画カメラで拡大した絵本や着物の本から元禄時代の町人の生活を想像し、疑問を出させる。視覚から問いがたくさん生まれる。

2. 着物と娯楽からみる商人の経済力

平和な世の中となり、刀の出番はなくなり、城下町で武士と町人が同じ場所で花見を楽しむが、図版から武士と町人の違いを探してみる。

T: 花見客は何をしているか注意深く見よう。現代の花見との違いでもいいよ。

S1 踊っている。練習の成果を見せている？

S2 三味線を弾いている。お琴を弾いているのは主人の娘で習っている？

S3 花見弁当が置いてある。お酒を飲んでいる。

S4 まな板の上で刺身を作っている人がいる。

S5 お椀をふいたり、酒を運んでいる人がいる。

S6 今はブルーシートを敷くけれど幕は張らない。

S7 衝立？屏風が置かれていてリッチそう。

T: 花見客を町人と武士に身なりで分けてみよう。

S1 羽織を着ている一番左の男性は武士かな。

S2 坊主頭の2人の男性は町人？お坊さん？

S3 料理している人は刀を差しているから武士かな？幕の外で敷物もないけれど。

S4 お椀をふいたり酒を運んだりしているのは大商人の使用人では？

S5 幕の中に大商人の主人家族3人がいて、厚手のピンク色の敷物の上にいる。

S6 松の木から右側は服装が派手で、赤い着物が目立つから町人かな。

S7 町人？刀を差しているよ。女性も刀を差している。

T: 町人が刀を持てた理由や着物の素材を考えよう。

S8 金の力で刀を持てたのかな。着物は絹で赤い色は紅花で染めた。京都の西陣織の高級品かな。

T: 着物は財力を見せびらかす道具だね。花見用に着物を持ち出し、雨に濡らすのが粋とされたよ。

3. 刀より金銀の力

身分は上でも収入が増えない武士に対し、天下の台所大阪を中心とした上方の大商人は、元禄時代に入ると江戸にも支店を持ち、全国の流通・経済を握るようになった。商人が始めた仕事をその必要性から生徒に考えさせたい。

T:大阪に米市場ができると武士にとって都合の良い点は何かな。

S1 食べない米を現金にできる。それで物が買える。

T:大量の米は何で運ぶかな。馬？人が背負う？

S2 船なら大量に運べる。大阪に航路がある。

T:ただし、船の短所は遭難と時間がかかる。逆に陸路に適したものは何かな。

S3 遭難しては困る高級品・・・絹織物、千両箱？

S4 速く届けないといけないもの、腐りやすいもの？

T:変質し易い酒は樽廻船という高速の船で運んだよ。

S5 飛脚の運ぶ手紙、情報は早い程いい。

T:米相場の情報や各地の売り物の情報に大商人は大金を払っても手に入れたね。

S6 千両箱を載せた馬が狙われたら大変だね。

T:大阪で大量の年貢米を現金化してもそれを江戸に運ぶ警備は幕府も大変だったよ。また大阪は銀、江戸は金で使用する貨幣が違っていた。この悩みを解決したのが、両替商。その中でも特に信用され、江戸にも支店を持っている両替商が為替手形の発行を任されるようになる。

S7 今の銀行みたいな仕事？

T:そうだね。違いは両替手数料を取ったこと。現在の外国貨幣の両替と同じだね。

S8 大商人でないとできない仕事だね。手数料でもうけた金で次の金もうけをする。

S9 大名貸しというのが教科書にある。

T:両替商をやる前に大名相手に行った金もうけに、呉服商といって絹の反物を大名家に訪問販売し、秋の年貢米で代金をもらう掛売りをしていたよ。

S10 絹の着物が買えない人はどうしていたの？

T:買えない人の方が圧倒的に多いね。賢い商人は農家を使って木綿を栽培し、糸や布に加工したよ。

S11 町人は反物で木綿を買って自分で縫ったのかな。

T:必要な分だけの布地を売り、裏ですぐ仕立てるが、現金売りに限定した新商法で三井越後屋が大もうけしているよ。

4. 淀屋の五代辰五郎の蓄財と全財産没収

フォーカスの文章をもとに大名をしのぐ贅沢ぶりを美術部生徒との協同で描いたのが右の想像図。文章にない部分を調べながらの作業は新鮮である。

T:淀屋の夏座敷を見て気づいたことを答えて。

S1 天井の水槽に金魚が泳いでいる。

S2 冷気が降りてクーラーだね。寝そべてカステラやスイカを食べているのかな。

S3 千両箱がうなっている。壁もキンキラキンだ。

T:一番もうかった商売は何か教科書で確認しよう。

T:淀屋はもうけを全て自分の財産にできたのはなぜか。今はもうけ全てを自分のものにはできないね。

S4 金持ちやもうかっている会社は税金を払う義務がある。じゃあ、払わなかった？なぜ。

T:もうかっている商人から税に当たるものをとったのは後に出てくる田沼意次くらいだね。でも失脚する。貿易収入は幕府だけだったね。

S5 農民からの年貢米だけか。幕府のために参勤交代とか無駄使いをさせられた大名は借金も増えるね。

T:いいところに目を付けたね。淀屋が五代目で幕府に全財産を没収されたのはなぜか、淀屋のぜいたく禁止以外に幕府のねらいは何か考えてみよう。淀屋が取りつぶされるとうれしいのは誰かな。

5. 流行をリードする町人文化

元禄文化は町人が流行(文化)の消費と創出もして、産業に結びついている。現代の生活にある娯楽と置き換えてイメージすると生徒には実感がわく。

①歌舞伎⇒有名歌手・スターのコンサート。

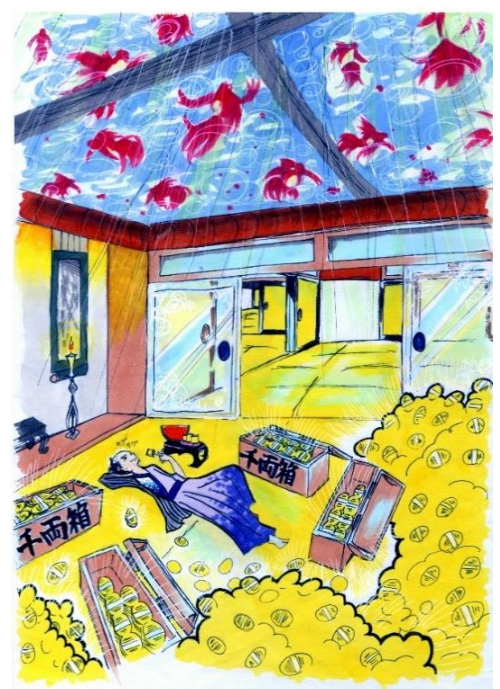
＊当時の歌舞伎観劇を絵本(『夢の江戸歌舞伎』服部幸雄)で拡大しながら比較する。流行した例として歌舞伎模様や役者絵の存在にふれる。

②人形浄瑠璃⇒運命や立場にしばられる韓国ドラマ。

＊近松門左衛門が人気を得た脚本名を調べる。

③『日本永代蔵』⇒経済小説のベストセラー。

＊著者の井原西鶴の出身地や町人が何を大切にしていたかを調べる。



研究者が語る「学び舎歴史教科書」

各時代を生きぬいた、名も知れぬ人々への共感を！

宮瀧 交二（大東文化大学教授）

私の毎年4月の「日本文化史」の第1回目の授業のエピソードから御紹介したい。受講してくれた学生たちに、まず最初に、明治・大正・昭和に生きた人物の名前を挙げて下さいと尋ねると、夏目漱石、樋口一葉、野口英世などといった答えが返ってくる。次に、空欄にした系図を配り、両親、祖父母、曾祖父母の名前を記入してもらおうと、4人いる祖父母の名前が全て書けない学生もいるし、8人いる曾祖父母の名前にいたっては、ほとんどの学生は空欄のままで、曾祖父母の名前を1人でも書ける学生はまれである。そこで私は、どうして、漱石や一葉のことを知っているのに、自分の身内のことを知らないのかと問いかけることから一年間の授業をスタートさせる。そして、3代前の曾祖父母は8名だが、10代前まで遡るとその数はなんと1024名になり、この1024名は、歴史の教科書には登場こそしないが、それぞれに立派な人生を送り、それぞれの時代を生き抜いたので皆さんが今ここにいるのではないかと畳みかけると、学生たちの目の色が徐々に変わってくる。

名も知れぬ人々への共感

さて、『ともに学ぶ人間の歴史』の原始・古代（旧石器時代から古墳時代）に登場する特定の人物名は、わずかに卑弥呼とワカタケルだけである。こうした特定の人物名が登場しないと、何となく生徒たちはその時代に対するリアリティを持ちがたいのではないと思われる。ところが、この教科書では、人物名こそ登場しないが、生徒たちが旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代に暮らした人々の息吹を感じ、それぞれの時代を「他人事ではない歴史」として実感できるような装置が随所に配置されている。

厳しい自然環境の下でナウマンゾウなどのわずかな獲物を追いながら移動生活を続けざるをえなか

った旧石器時代の人々、豊かだった自然に全面的に依存していたため、安定した生活と一歩間違えると死に至る厳しい局面が表裏一体であった縄文時代の人々、稲作の導入に伴うより豊かで安定した生活の追求から、時にはムラとムラとの戦闘をも余儀なくされた弥生時代の人々、そして火山噴火等の自然に見舞われながらも、安定した生活を追求するために、より広域な政治的・経済的な関係を築き、ついには国家形成への道を歩み始めた古墳時代の人々、こうした名も知れぬ人々への共感がこの教科書を用いた授業を通じて自然と生まれてくるであろう。

歴史を学ぶ目線

かつて夏目漱石は、長塚節の小説『土』に寄せた文章の中で、その登場人物たちを「蛆同様に憐れな百姓の生活」と評した。そこには、自分と同じ時代を生き、同じ空気を吸っている茨城の農民を同じ目線で見つめようとする姿勢はなく、彼らへの共感も存在しなかった。これに対してこの教科書で学ぶ生徒たちは、それぞれの時代を真剣に生き抜いた自分たちの祖先の姿を具体的に学び、かれらと同じ目線で社会・時代を考えることの大切さに気が付いてくれるのではないかと期待する。

またこのことは、この教科書が生徒に歴史を教える先生方の力量が問われる教科書であることも意味している。まずは先生方御自身が、各時代を象徴する特定の人物にフォーカスをあてるのみならず、その背景に存在した圧倒的大多数の人々の生き様（ぎま）にも目を向け、彼らの息吹を感じて下さることを期待したい。

みやたき・こうじ／専攻は日本古代史・博物館学。主著に「村落と民衆」（『列島の古代史3 社会集団と政治組織』岩波書店、2005年）『歴史をよむ』（共編著、東京大学出版会、2004年）など。

女性史・ジェンダー史の成果が豊かに盛り込まれた教科書

横山 百合子（国立歴史民俗博物館名誉教授）

“まるで教科書みたい”といわれるように、教科書は「無味乾燥」で「おもしろくない」ことの代名詞となっているのが現状です。しかし、学び舎の教科書は、このような先入観を根本からくつがえし、思わず読みふけてしまう魅力を持っています。子どもたちが「え、なぜ？」と考えたくなる、歴史的思考の喚起力にあふれた素材、近現代史の重視、読みやすい本文、動物や学校、子どもといった身近な切り口から問いかけていく姿勢など、その魅力はいくつもありますが、女性史・ジェンダー史の研究成果が豊かに盛り込まれていることも、魅力のひとつといえるでしょう。

“決断”の教科書

「バスチーユを攻撃せよ—フランス革命—」という見開きのページを見ると、フランス革命において、人権宣言が発表され王政が廃止された後、国民の政治参加が認められたにもかかわらず、女性や植民地奴隷の人権は認められなかったことがわかりやすく書かれています。このような、フランス革命の達成とその歪みをトータルに見る見方は、国内外を問わず、歴史研究者のなかではすでに常識となっています。しかし、「女性の権利宣言」を書いて女性の人権の不在を批判したオランブ＝ド＝グージュと、奴隷解放によって史上初の黒人共和国を建てたトゥサン＝ルベルチュールを、本書のようにフランス革命全体の構造のなかで生き生きと描いた教科書は、まだ見当たりません。最も詳しい高校世界史教科書には、いまだグージュの名前も、女性の人権が認められなかったことも書かれていないのです。学び舎の教科書は、“教科書の常識”にとらわれず、それが子どもたちの未来にとって大切な内容であれば、歴史学の成果をふまえてわかりやすく書くという姿勢に貫かれています。まさに、学問の成果と授業実践をふまえて取捨選択する“決断”の教科書といってもよいでしょう。

ジェンダー視点からの斬新な構成

また、斬新さに驚いたのは、第8章「帝国主義の時代」でした。第8章の扉は、2ページ見開きで、纏足やベール、窮屈な帯やコルセットを解き放って、政治的・社会的進出を果たす帝国主義時代の女性たちの姿が、衣服の変化によって興味深く示されています。一方、ページをめくっていくと、兵士とそれを不安げに見送る家族の図に「WOMEN OF BRITAIN SAY-GO!」と記した第一次世界大戦中のポスターも現れます。女性の政治・社会への進出と女性の戦争への動員は歩調をそろえて進み、最終的に、兵士だけでなく国民全体が「多くの破壊と死」にさらされていくことが、章全体からわかりやすく読み取れる構成といえるでしょう。扉にかかれた「困難な時代に生きた人びとの声や体験から学びましょう。戦争は、人類に何をもたらしたのでしょうか」という問いにたいして、ジェンダーの視点から深く考えられるよう、実によく工夫された構成です。

躍動する女性を描く

学び舎の教科書では、全体の約半分にあたる61項目を近現代史に割いていますが、そのなかで女性について言及がないページはわずかです。前近代においても、卑弥呼や北条政子はもちろん、日本で初めての留学生は尼であったこと、多種多様な職業をになう中世の女性たちの姿、一揆に立ち上がる女性など、どの時代においても、働き、学び、暮らし、憩う女性たちの姿が鮮やかに浮かび上がってきます。現在の高等学校日本史教科書でさえ、女性についての記述は全体の3%に満たないのが現状です。歴史の半分を支えた女性の姿を、事実に基づいてこれほどゆたかに躍動的に描く教科書の登場は、初めてのこと。中学生だけでなく大人にとっても、読み応えのある教科書です。

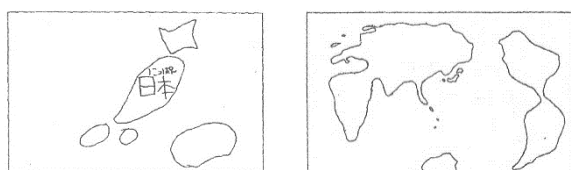
よこやまゆりこ / 専攻は日本近世史・ジェンダー史。
主著に『明治維新と近世身分制の解体』（山川出版社、2005年）『江戸東京の明治維新』（岩波新書、2018年）

運命を切りひらいたジョン万次郎 (教科書 130 ページ)

周藤 新太郎 (千葉県立東葛飾高等学校教員)

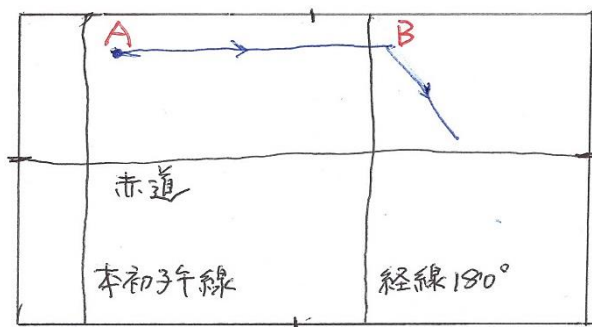
1. 5秒で書ける一筆書き世界地図

生徒の頭の中には、どのような世界地図があるのだろうか。いきなり白紙に世界地図を書かせてみよう。日本しか書けないものから五大大陸を区別しておおよその形が書けるものまでさまざま。

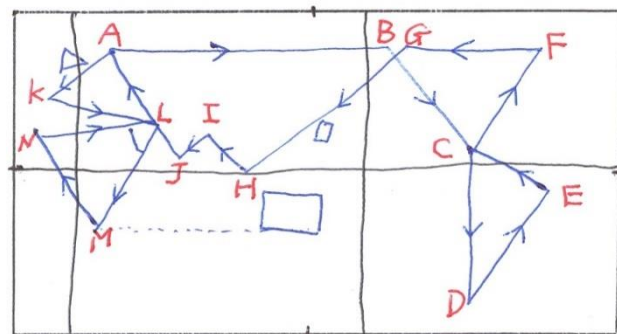


世界を学ぶためには、世界地図が不可欠である。そこで、5秒で書ける一筆書き世界地図の書き方を紹介しよう。

- ①基準となる赤道、本初子午線、経線 180 度を引く。
- ②本初子午線のやや右 (A) からスタート、赤道と並行して右へ。180 度を少し超えたシベリア東端 (B) で斜め右下へ北アメリカ西海岸を書く。



- ③赤道のやや上 (C) で角度を真下に変え、南アメリカを書く。ブラジル東端 (E) は赤道のやや下。
- ④Cに戻り、北アメリカ東海岸と北海岸を書き、Bの直前 (G) で、一気に左斜め下へ。シンガポール (H) は赤道にほぼつける。
- ⑤インド南端 (J) はHよりやや上、出発点 (A) に戻る。ヨーロッパを書く。イベリア半島 (K) は本初子午線を超え、メソポタミア (L) へ。
- ⑥アフリカを書く。南端 (M) は本初子午線より右、Dより上。アフリカ西端 (N) は赤道よりかなり上、本初子午線より左。



⑦オーストラリア大陸は、南端がMと同じ高さ。A—Lの線を消し、アラビア半島、日本、イギリスを書き込んで完成。慣れればこの間約5秒。

それでは、生徒と一緒にジョン万次郎の旅を辿りながら、世界地図にルートを書き込んでいこう。

2. 世界地図から辿るジョン万次郎の冒険の旅

1841 年 1 月 (太陽暦)、14 歳の万次郎は兄貴分たちと初めて漁にでた。運悪く嵐にあい遭難、無人島の鳥島に漂流した。約半年のサバイバル生活の後、島近くを航行中のアメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救出された。

ここで生徒に発問「どこの国のどんな船に救助されたか?」。バイキング船・ダウ船・ジャンク船・帆船・蒸気船などの図版を示す。教科書にはモリソン号の図版があるのでヒントになる。

次に「どうしてアメリカの捕鯨船が日本近海に来ていたのだろうか」と生徒に問いかける。

3. なぜ捕鯨船なのか

当時欧米では、クジラは様々なことに使用されていた。①機械用の潤滑油として②産業革命以降、深夜労働のためのランプの燃料として③婦人が使用したコルセット、ペチコートのパネとして④化粧品の原料として、等である。特にランプの燃料として、鯨油の需要が拡大した。日本では和時計、文楽の操り人形のパネ、肉は食用、骨、内蔵は肥料にした。

1787 年イギリスがオーストラリア沖でクジラを獲り始め、アメリカは 1820 年代から日本の金華山

沖で獲り始めた。イギリスとアメリカは大西洋のクジラを獲り尽くし、太平洋に來たのだった。万次郎はアメリカ人がクジラの肉を海に捨てているのを見て、「もったいない。牛、豚を食べるから捨てるのだろうか」と思ったそうだ。この当時、2年から3年の遠洋漁業が盛んになり、その中心はホノルル、グアムであった。1843年にはホノルルに383隻の捕鯨船が停泊していた。ホッキョククジラ、セミクジラ、マッコウクジラを手鋸で撃ち、銃でとどめを刺し、船で解体し、脳油から始まって肉以外のあらゆる場所を使った。ジョン万次郎を救助した船は3000樽の鯨油を持ち帰ったという。

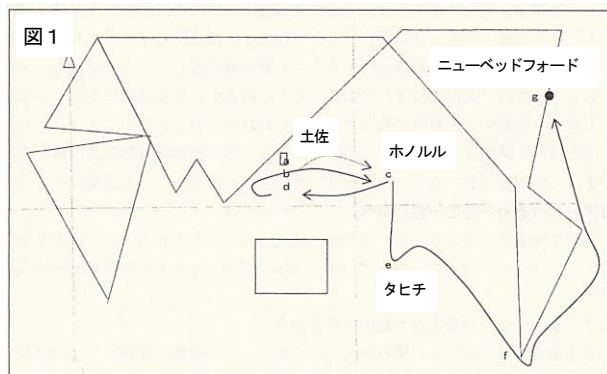
1840年代から1860年代が最も盛んな時期で、母船にキャッチャーボート4隻を載せ、1回の航海は3年程度であった。イギリスの船はオーストラリアに犯罪者・流刑者を運び、帰りに鯨油を積んで帰った。アメリカの捕鯨の基地ニューベッドフォードは鯨油によるろうそく産業が発達した。しかし1860年代に石油の油田が発見され、石油の分留が始まると捕鯨業は衰退していく。日本は沿岸の網獲り式の捕鯨であったが、のち鋸による方式を伝えたのは万次郎である。

恐れず何事にも興味をもつ万次郎を、船長のホイットフィールドはかわいがった。万次郎は西洋式捕鯨に興味をもち、そのまま捕鯨船に乗り続けた。その間、船員たちから船の名前にちなんでジョン万とよばれるようになった。

4. 世界地図の略地図に書き込ませよう

1843年5月ニューベッドフォードに帰港すると、万次郎はホイットフィールドの援助で小学校に入学。そして当地の最高上級学校に学び、英語、航海術、捕鯨の技術などを取得した。

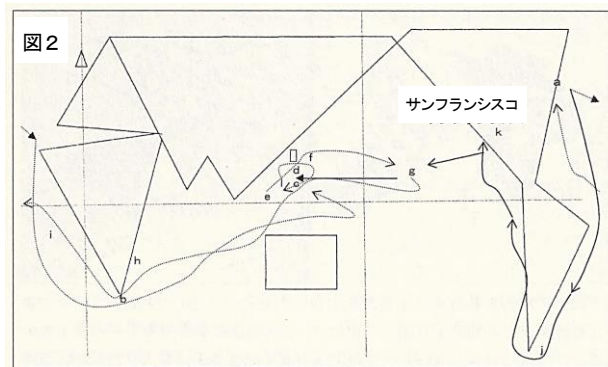
生徒には実際の世界地図を提示して、万次郎の航路の地点となる、a 高知（土佐）、b 鳥島、c ホノルル、d グアム、e タヒチ、f ホーン岬、g ポストン（ニューベッドフォード）を辿らせた後、世界地図の略地図を書かせて、そこに順々に線を引かせる（図1）。



略地図は太平洋を中心にする。太平洋の広さを実感できる。

19歳に成長した万次郎は、自ら捕鯨船に乗り、約3年にわたる航海に出発した。この間、彼の航海技術は飛躍的に上達し、下級船員から副船長まで昇格した。

次に、3年間の航路を略地図（図2）におとしこむ。a ニューベッドフォードを出て大西洋を横切り、アゾレス諸島、b 喜望峰を回りインド洋をいっきに横断、スンダ海峡、ティモール、パプアニューギニア、c グアム、d 小笠原諸島、琉球近海、e マニラ、f 仙台沖合、g ホノルル（ここで西に旋回）、c グアム、ティモール、インド洋を再び横断、h マダガスカル近海、喜望峰を回って、i セントヘレナ島近海、大西洋を横切り a ニューベッドフォードまでを線で引かせる。



5. 万次郎が砂金を求めたわけは？

1849年帰港した直後、カリフォルニアで金発見のニュースを聞く。ゴールドラッシュだ。彼はすぐさま行動をおこした。パナマを陸地で横断するコースはとらず、ホーン岬周りで現地に入った。砂金に群がる採掘者たちの中に分け入って砂金を採り短期間で600ドル以上の資金を稼いだ。万次郎は、一時も母親との再会を忘れてはいなかった。その資金はボートを購入し、故郷に戻るためだった。ホノルルで上海へ茶を買い付けに行く船の船長に頼み、ボートを船に積んで途中の沖縄（琉球王国）で降ろしてもらった。1851年2月、予定通り沖縄近くでボートを降ろしてもらい、危険で困難な操縦だったが、自力で摩文仁に上陸することに成功した。その後、長崎での幕府の取り調べを経て、土佐に帰り、1852年10月ついに故郷で11年ぶりに母との再会を果たした。

この間のルートを略地図に書いてみる。ニューベッドフォード、ホーン岬、サンフランシスコから、カリフォルニア、ホノルルを経由して沖縄、高知（土佐）に帰り着くまでの航路を辿らせ線を引かせる。

このように辿っていくと、どれだけ長い距離を万次郎が航海をしたのかが実感できるだろう。

生徒が地図に万次郎の航海ルートの線を引き終わったところで、ひとつの地図をみせる。その地図は万次郎から聞き取りを行った土佐の学者が、当時の日本で流行した平射図法の両半球世界図に記入したものである。漂流期間、捕鯨船の乗組員時代、帰国のコースと色分けをしてある。万次郎から聞いて、その航路を線で描いたその学者も、生徒と同じように、その距離の長さ、行動範囲の広さに驚いたことだろう。

6. 生徒の「共感」を呼び起こさせる万次郎の冒険

「私はジョン万次郎という人のことを全く知りませんでした。まだ14歳なのに、外国人だらけの船に乗って生活したなんて、私は信じられませんでした。それに子どものうちから大人と一緒に働いていたし、

ジョン万次郎はしっかりしていて、とてもすごいと思いました。地図をたどって、ジョン万次郎の航路を見ると、世界中を旅したすごさが分かります」。

万次郎と同じ年代の中学生が、彼の行動に驚嘆し、共感を呼び起こす。そして万次郎がそこまで成し遂げた力はなんだろうか、と疑問をもつだろう。そこから一人の少年の成長を通して、幕末の日本をとりまく外国の動きや国内の変動を考えさせる。

万次郎の学習を通して、世界史的視野にたつて、幕末の日本がおかれた状況を理解させたい。その背景として、アメリカやイギリスが産業革命を推進し、その中で捕鯨業や中国市場への進出がおこなわれた延長上に、外国船の到来やペリー来航があることを確認する。そしてなによりも、生徒との年齢が近いジョン万次郎の異国の地でたくましく生きぬく意志の強さから、生徒の「共感」を呼び起こさせたい。

学び舎書籍案内

教師用指導書



子どもの気づきからはじまり深まっていく授業展開例を掲載。授業づくりに役立つ図版や本文などの解説を豊富に掲載。

定価 15,000 円+消費税

『楽しくわかる深く学べる ともに学ぶ人間の歴史』ガイド



教科書の図版やフォーカスから生徒が生みだした疑問や問い、そこからはじまる授業例を掲載。

定価 1,400 円+消費税

『授業ブックレット』シリーズ



No.13 1月発売



定価 700 円+消費税

- 服藤早苗
女帝から国母へ
- 野村育世
北条政子とはどんな人ですか？
- 千葉 保
鎌倉時代の墓からわかること
- 黒田貴子
3月11日午後2時46分
—大震災と原発事故



発行 ● 株式会社 学び舎
住所 ● 〒190-0022
東京都立川市錦町3-1-3-605
TEL ● 042-512-5960 FAX ● 042-512-5961
E-mail ● manabisha123@cronos.ocn.ne.jp
ホームページ ● <http://manabisha.com>

(株)学び舎HP TOP



授業づくりリンク集

